

令和7年度 鳥取沿岸土砂管理連絡調整会議（東部地区） 議事要旨

日 時：令和7年12月19日（金） 14時～16時00分

場 所：鳥取県東部庁舎5階 講堂

1 議事

（1）サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出と今後の対応方針（鳥取県河川課）

○各海岸のサンドリサイクル実績および短長期の汀線変化傾向についての考察が報告された。

＜主な意見＞

○（鳥取大学 黒岩教授）

・千代川右岸の海岸は砂丘も含まれており注目度が高い。令和4年から令和7年の土砂量の比較ではほぼ全区間で侵食傾向があり他の海岸と比べ懸念される。今後のモニタリングにおいては、土砂の算定方法を見直すなどの検討も必要と考える（例えば、人工リーフの沖側と内側で平面的に砂の分布を見していくなど。）

・海岸の中でも砂浜が必要な箇所と防護水準を満足していないくても砂浜が要らない箇所（利用もなく護岸も健全で保全対象がない箇所）もある。経年的な浜幅の傾向を整理し、背後の状況と一緒に確認することで、養浜が必要な箇所/不要な箇所の検討・整理を行う必要がある。来年度はそういう視点も加味して資料整理を行ってほしい。

・田後港の奥に砂が多くたまっている。一度ポケット浚渫を行ってみてはどうかと思う。

○（鳥取県河川課）

・モニタリングの精度を高めていき、効果的なサンドリサイクル方法を検討していく。

○鳥取県土整備事務所（計画調査課）

・青谷海岸では令和4年と令和7年の土砂量比較で約10万m³の侵食傾向であり、鳥取県土でも勝部川の河口砂州をサンドリサイクルしているが400m³程度しか土砂投入できていない。この場を借りて関係者の皆様にサンドリサイクルの協力をお願いしたい。

（2）各管理者からの報告と主な意見

■千代川河口掘削のサンドリサイクルについて（国土交通省鳥取河川国道事務所）

令和6年度から実施されている千代川河口部掘削土砂による陸上・海上養浜の実施状況が報告された。

また、養浜材は鳥取砂丘海岸の海浜構成材料より少し大きい粒径の土砂を養浜している旨が報告された。

さらに、千代川河口左岸側に砂が溜まり、濁筋ができて右岸側を流れるようになっているのは河口の深掘れによる可能性があり、河口の様子をモニタリングしていく必要性について意見があった。

■岩美海岸（浦富地区）の浜崖状況と今後の予定について（鳥取県鳥取県土整備事務所）

令和2年度から浜崖対策として実施されているサンドパックの施工状況が報告された。

岩美町の住民から、人工リーフ開口部の侵食が目立つことから早急な対策の要望が寄せられているとの報告があった。

■酒津漁港の堆砂対応について（鳥取市林務水産課）

酒津漁港で隔年実施しているポケット浚渫の養浜先の調整状況について情報共有がなされた。

酒津漁港の堆積土はまだ取り切れていないため、引き続き浚渫を実施していく必要あるとの報告があった。

漂砂系外への土砂搬出による影響かは定かではないが、水尻海岸西側で若干浜幅がやせてきており、状況を見て緊急養浜をすることの必要性について意見があった。

■海岸保全基本計画の変更について（鳥取県河川課）

気候変動を踏まえた海岸保全基本計画の変更について、昨年度までの技術検討委員会の検討結果、今年度からの検討委員会における要施設整備箇所の選定と整備方針、今後の海岸保全対策の検討状況について報告された。